

生分解性マルチ(0.018mm厚)の実用性確認試験



試験品(銀ネズ) 雑草が多い



慣行品(黒)



試験品(銀ネズ) マルチ内部に雑草が生えている



慣行品(黒) マルチの端が分解してきている

試験目的

生分解性マルチ(0.018mm厚)の実用性を確認することを目的とする

試験作物 及び品種

スイートコーン(品種:あまいんです、ミエルコーン他)

試験資材 及び数量(規格)

エドピ生分解(銀ネズ)(0.018mm×95cm×400m)

慣行資材

土っ子(0.02mm×95cm×400m 黒)

栽培方法

播種日

4月末～7月末
播種および定植

【栽植密度】 株間:30cm

資材使用期間

4月末～9月末

播種および定植と同時か数日前に展張。
収穫後、鋤込作業実施。

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

展張、穴あけ時に多少裂けやすいとの意見が一部あったが、特段の問題なし。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

天候の影響はあったが、慣行と比較し特段の問題はない。

(3)資材の強度・耐久性・崩壊性について

慣行品と比較し、多少の弱さを感じたが、実使用面では、大きな問題はなかった。

(4)促成・抑制効果について

慣行品と同様。

(5)保温効果について

慣行品と同様。

(6)雑草・病害虫の発生について

銀ネズ品としての効果はあったかもしれないが、期待したレベルの効果ではなかった。

モニター感想

薄肉品(フィルムの厚さが薄い)のため、慣行品と比較して、展張時の破れ等が懸念されたが、展張・穴あけ時の多少の裂けはあったものの、特段の問題はなかった。生育についても問題なく、天候の影響はあったものの、慣行品と比較して問題はなかった。また、使

用後の鋤き込みについても問題なく、生分解速度も問題ないと思われる。スイートコーンについては、省力化として雑草抑制効果をマルチに求めている経過から、従来より黒品を使用していた。今回の試験については、銀ネズ品ということで、透明品と黒品の中間的な効果(コスト低減と生育促進と雑草抑制効果)を狙ったものであったが、生育は問題なかったものの、雑草抑制効果については期待した効果がなく、雑草処理への対応に苦慮した。今回使用した銀ネズ品は色合を濃くしたものではあるが、現状ではまだ使用が困難であると判断している。

JA担当者の感想(渡辺氏、三文字氏)

今後のコスト低減とともに、透明品の生育促進と黒品の雑草抑制を併せ持つ資材として、銀ネズ品を使用した経緯があるが、慣行品と比べて作業性等は変わらず使用できたものの、雑草抑制効果が足りない結果となった。スイートコーンの出荷期間が長期にわたり多忙を極め、雑草処理にかかる手間・時間をさくことが困難であるため、マルチによる雑草抑制効果は必要不可欠となっている。色合については、製品設計の見直しが必要であると思う。

今後の使用について

改良して欲しい。